

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【東牟婁振興局】那智勝浦町の小学生がスイートコーンの収穫を体験

令和6年7月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～いちご炭そ病対策資料を作成、農家へ対策を周知～	
2. 柑橘の生育調査が始まる	
II 那賀振興局	2
1. いちごの若手生産者によるコミュニティが発足	
III 伊都振興局	3-4
1. 高野山麓精進野菜栽培講習会の開催	
2. 黒枝豆研修会を実施	
3. クビアカツヤカミキリ対策会議・現地研修会の実施	
IV 有田振興局	5-6
1. 有田農業技術者会総会及び研修会を開催	
2. 令和6年度有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会	
3. 御霊小学校でみかん摘果の体験学習を実施	
V 日高振興局	7-9
1. クビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施	
2. 日高川町農業士会視察研修を実施	
3. 令和6年産温州みかんの着果状況調査を実施	
4. 美浜町農業士会視察研修を実施	
5. 日高地方農業士会女性部会先進地研修会を実施	
6. ニューファーマーズ激励会を開催	
VI 西牟婁振興局	10
1. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が田辺市扇ヶ浜で 「梅干しPR&うめラッシーふるまいイベント」実施	
VII 東牟婁振興局	11-12
1-1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】 ～みくまの産地協議会が第1回UIターン就農相談フェアに出展～	
1-2. ～那智勝浦町苺生産組合が第54回総会及び研修会を開催～	
2. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催	
3. 那智勝浦町の小学生がスイートコーンの収穫を体験	

1. 令和6年度第1回U I ターン就農相談フェアを開催

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～いちご炭疽病対策資料を作成、農家へ対策を周知～

農業水産振興課では、新規参入したいちご農家の安定生産を実現し、産地化につなげるべく普及活動を行っている。

いちごの重要病害の1つである炭そ病について、農家に対策方法を周知し、発病予防につなげてもらうため、対策の要点をまとめた資料を作成した。

この資料を農家巡回の際に配布し、対策の周知を図っているところである。農家から「情報を教えてもらえて助かる」などの声があり、炭そ病対策の再確認などをしてもらっている。

農家自らが病害を判別し対策を行えるようになることが安定生産につながるため、当課では今後も引き続きいちご栽培の指導を行っている。



作成した資料

2. 柑橘の生育調査が始まる

ながみね農協と振興局では毎年7月から12月までの5日と20日に柑橘の肥大調査を行っている。本年も7月5日から調査を開始した。みかんと中晩柑の21園地を対象に1園につき3樹を供試し、1樹あたり30果をラベリングして横径・縦径を測定する。じょうのうに果汁が溜まりだした8月5日からは糖・酸の測定を開始する。果実品質については7月21日の梅雨明け発表以降、晴天日が多いため良好な食味となることが予想されている。調査結果は生産対策や販売促進対策に活用していくことにしている。

令和6年産のみかんは着花が多い表年であるものの、樹園地へのカメムシの飛来が多く、吸汁被害による落果が散見される。調査の最中も農家に対して注意喚起を行ったところである。

調査時に行う技術者同士の意見交換や農家との対話から今後産地の向かうべき方向を検討していきたい。



みかんの肥大測定

Ⅱ 那賀振興局

1. いちごの若手生産者によるコミュニティが発足

那賀振興局では、令和6年度から普及計画の重点プロジェクトとして、「次代を担ういちご生産者の確保・育成」に取り組んでいる。今回、いちごの若手生産者の仲間づくりや栽培技術等の情報交換ができる場として「那賀いちご若手コミュニティ（以下、コミュニティ）」を立ち上げた。参加条件は就農5年目までのいちご生産者、いちご生産農家の子弟、将来いちご栽培での就農予定者としている。

7月26日、那賀振興局大会議室において、メンバー17名（うち生産者10名、研修生7名）と関係者（紀の川市、経営支援課、農業試験場）4名が出席して、コミュニティ発足会を開催した。

初めに、門阪副部長から「コミュニティを通じてメンバー同士気軽に繋がってほしい」との挨拶の後、一人一人が、いちごの栽培状況や研修状況など自己紹介を行った。

その後、嶋本副主査がコミュニティの概要について説明し、年間の活動内容についてメンバーが意見を出し合った。メンバーからは、農薬や肥料、経営についての勉強会をしたい、作業日誌・防除日誌をメンバー同士で共有したいといった意見が挙げられた。今後、農繁期である3月、4月を除いて月1回程度勉強会を開催していく予定である。

また、発足会では、メンバー同士が気軽に繋がれるようグループLINEを作成した他、いちご以外の生産者と繋がる機会として、4Hクラブの紹介を小野寺副主査が行った。



発足会の様子



参加メンバーの集合写真

Ⅲ 伊都振興局

1. 高野山麓精進野菜栽培講習会の開催

伊都地域では、高野山麓農産物産地化協議会（橋本市、橋本市農業委員会、JA紀北かわかみ、農業者、農産物販売業者、伊都振興局、オブザーバー：かつらぎ町、九度山町、高野町）が地元野菜に栽培基準を設け、「高野山麓精進野菜」としてブランド化に取り組んでいる。

7月11日、橋本市役所において高野山麓精進野菜栽培講習会が開催され、新規栽培希望者2名が参加した。はじめに、橋本市農林振興課秋山課長補佐から高野山麓精進野菜の定義やコンセプトについて説明した後、農業水産振興課山田主査から栽培方法や農薬・肥料の使用について説明を行った。参加者からは、「肥料中の窒素成分量の計算が難しそうだが生産にむけて頑張ってみたい」、といった意見があった。

当課では、今後も関係機関と連携して、栽培講習会等を通じて生産拡大を支援していく。



講義の様子

2. 黒枝豆研修会を実施

7月22日に、環境にやさしい技術・省力化に資する技術（生分解性マルチ）を活用した黒枝豆のほ場にて、伊都管内の農業関係者に対し栽培研修会を開催したところ、9名の参加があった。

はじめに、農業水産振興課の山田主査が、経営者である北本規子氏の概要について説明し、続いて北本氏が黒枝豆を栽培する際における生分解性マルチの有用性や課題となる部分を解説後、参加者と意見交換した。

参加者から、「どのように分解されていくのか実際に見ることができた」、「野菜栽培で生分解性マルチを使うことも考慮したい」といった声があがった。



研修会の様子



ほ場を確認する参加者

3. クビアカツヤカミキリ対策会議・現地研修会の実施

農業水産振興課は7月30日に、クビアカツヤカミキリ対策会議と現地研修会を開催し、JA紀北かわかみ職員12名が参加した。

対策会議では、クビアカツヤカミキリ対策の対応方針について協議し、南方普及指導員が掘り取りの重要性について解説した。今後は生産者の意向を踏まえ、被害樹の伐採、伐根のみではなく、掘り取りによる幼虫の駆除を積極的に行っていくことになった。

会議終了後、クビアカツヤカミキリの被害園地で、浅井普及指導員がクビアカツヤカミキリ幼虫の掘り取り方法を実演した。掘り取りの注意点について説明した後、参加したJA職員も作業を実行し、講義内容を再確認した。

地域全体の取り組みが重要であるため、今後、生産者を対象とした掘り取り研修会を予定している。



現地研修会の様子

IV 有田振興局

1. 有田農業技術者会総会及び研修会を開催

7月4日、有田振興局において有田農業技術者会の総会を開催した。本会は、有田地方の農業の発展、地域振興に寄与することを目的として農業水産振興課普及グループ、果樹試験場、JAありだ、農業共済、土地改良区、近畿大学附属農場、有田中央高校の農業関係機関から構成（会員数 62名）されている。

総会では、令和5年度の事業報告、会計報告に加え、令和6年度の事業計画案、予算案、新役員案が承認された。また、会長に当課の間佐古普及指導員、副会長にJAありだの伊藤氏が選任された。

研修会では、当会が令和6年3月に実施した先進地事例調査の報告を中井前会長が行った後、果樹試験場の衛藤主任研究員から傾斜地果樹園におけるドローンの活用について、直川副主査研究員からカンキツの病害虫（カイガラムシ類、黒点病）の防除対策について、講義が行われた。

本会では、今年度も温州みかんの土壌水分調査、アザミウマ類やカメムシ類の予察調査、先進地事例調査等を実施し、有田地域の農業現場へ情報提供を行っていく。



総会を進行する中井前会長



研修会で講義を行う直川副主査研究員

2. 御霊小学校でみかん摘果の体験学習を実施

農業水産振興課は、有田川町立御霊小学校において、地元産業への理解を深めるため、総合学習の授業で年間を通した温州みかんの栽培体験を実施しており、7月4日、3年生61名に対して1回目の学習として、みかんの摘果の授業を行った。

授業では、古田普及指導員がみかんの栽培管理および日本農業遺産について座学で授業を行った後、有田川町の地域農業士である玉置泰伸氏指導のもと、学校近隣の園地で摘果体験を行った。

児童から「みかんをちぎる時、想像していたよりも固かった」等の感想が聞かれた。座学での質問タイムでは、「みかんにどうやって水をあげるのか」、「樹が弱ってきたら実もできなくなるのか」等、多数の質問が寄せられ、玉置氏がそれぞれの質問に対し、丁寧に回答した。

10月に同じ園地で収穫体験の授業も予定している。



古田普及指導員によるみかんの授業



玉置氏による摘果作業の説明

3. 令和6年度有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会

7月22日、農業水産振興課は有田管内の新規就農者（5年以内）と有田農業女子を対象とした有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会が有田中央高校ほ場にて開催され、12名の農業者が出席した。

第1部は、みかんの粗摘果の講義および実習を行った。卓越した栽培技術を持ち、県知事が認定した「匠の技 伝道師」である佐原洋一氏が講師となり、粗摘果についての実演を行った。



粗摘果の実演を行う佐原氏（中央）

その後、佐原氏の指導のもと参加者が実際に粗摘果を行った。参加者からは「普段自分の畑で行っている摘果や浮皮対策が合っているかどうか確認する良い機会となった」「講師の実演を見て、その部分も摘果するのかと気づくことができ、大変勉強になった」などの感想が上がった。

第2部はみかんの浮皮軽減対策について、古田普及指導員が講義を行った。8月下旬には再び佐原氏を講師として、同じ樹で今回の粗摘果の効果を見ながら仕上げ摘果の研修を行う予定である。当課では継続して新規就農者・女性農業者の技術習得支援を行っていく。

V 日高振興局

1. クビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施

6月中旬に由良町で通算2例目のクビアカツヤカミキリの被害が確認された。これを受けて、7月1日に由良町役場、衛生環境課、農業水産振興課の総勢15名で、発生地点から半径1kmの範囲の悉皆調査を実施した。今回の調査では、38か所、402本の樹木を調査し、新たに、1か所で2本の被害が確認された。

被害があった2本については、生産者が速やかに対策を行い、現在は既に伐採済みである。

今後も関係機関と連携しながら、発生園を中心とした範囲を定期的に調査し、被害の早期発見と拡大防止に取り組んでいく。



悉皆調査の様子



クビアカツヤカミキリの脱出孔

2. 日高川町農業士会視察研修を実施

7月10日、日高川町農業士会（会長：大嶋徳男氏）は兵庫県で視察研修を行った。新型コロナウイルス感染症の流行などで県外での開催は5年ぶりとなり、12名が参加した。

西脇市の㈱いけうち高嶋農場では、同社の主力製品である噴霧ノズルを随所に活用した中玉トマトの実証栽培施設を見学した。栽培施設内に設置されたノズルから噴射される霧が室内の昇温防止、飽差管理や農薬散布といった様々な用途に利用される様子、更に閉鎖空間に張らせた根域に培養液の霧を噴霧して作物を育てる噴霧水耕システムを実際に見ながら説明を聞いた。また、一般に販売している同農場のトマトを試食させてもらい、噴霧水耕の利点である味の揃いのよさを確認した。参加者からは、「トマト以外で噴霧水耕の特徴が活きる作物は？」などの質問が出された。

神戸市の道の駅神戸フルーツフラワーパーク大沢では、農産物直売施設「ファームサーカス・マーケット」で農家が出品した農作物や加工品をはじめ、周辺農家が行うイベントや農業体験等の情報発信について見学した。参加者からは、「規模は異なるが、道の駅が地域農業の情報発信基地として大きな働きを担っていることに意義を感じる」との感想が聞かれた。



係員から説明を受ける参加者
(㈱いけうち高嶋農場)



「ファームサーカス・マーケット」の見学
(道の駅神戸フルーツフラワーパーク大沢)

3. 令和6年産温州みかんの着果状況調査を実施

7月23日、JA紀州、JAグループ和歌山農業振興センター、振興局等で構成する日高果樹技術者協議会（会長：近田勝紀氏）は、今年産温州みかんの生産量を予想・把握し、日々の技術指導に生かすため、計11名で着果状況調査を行った。調査とともに、班ごとに由良町、日高川町各地区のみかん樹の生育状況や病害虫発生状況も併せて確認した。

調査終了後、調査結果をもとに検討会を開催した。結果としては、ゆら早生、早生温州ともに由良町では平年よりもやや多く、日高川町ではやや少ない傾向であった。

また、各班調査地区の園地状況報告を踏まえ、会員皆「カメムシが多発し、果実落果している園地がどの地区でも散見されるため、農業者に対して継続して啓発を行っていく必要がある」との認識で一致した。



着果状況調査の様子

4. 美浜町農業士会視察研修を実施

7月25日、美浜町農業士会（会長：田淵秀樹氏）が、和歌山県農業試験場で高温耐性を持つ水稲品種やきゅうりの病害虫について視察研修を実施し、農業士、美浜町役場、農業水産振興課職員、計6名が参加した。

はじめに、川村主任研究員から、様々な品種の一等米比率の比較や、県奨励品種である「にじのきらめき」について講義があった。「にじのきらめき」は、現主力品種である「キヌヒカリ」よりも収量が多いが、株が密集しやすく風通しを良くしなければ病気になりやすいことなどを学んだ。

その後、岡本主任研究員から、アザミウマやコナジラミの天敵であるタバコカスミカメの利用について講義があった。場内にはクレオメとゴマが植えられたハウスがあり、そこでタバコカスミカメを集めているとのことだった。出席した会員からは、「クレオメで天敵を集めるのも良いかもしれない」といった声が聞かれた。



水稲の品種・高温耐性の講義



土着天敵の利用について学ぶ会員

5. 日高地方農業士会女性部会先進地研修会を実施

7月30日、日高地方農業士会女性部会（部会長：片山綾子氏）が、女性農業士相互の研さんと親睦を図るため先進地研修を実施し、10名の参加があった。

今回は三重県伊賀市にある「モクモクづくりファーム」で研修を行った。施設見学や、農村レストランでの昼食後、ボイルウインナーづくり体験を行った。お肉を練り、羊の腸に実際に詰めて成形し、茹でて完成となるが、初体験の会員がほとんどで、楽しく和気あいあいとウインナーづくりを行った。研修会中は、会員相互で意見交換を活発に行った。会員からは「これからも情報交換を活発に行いたい」との意見が聞かれた。



ウインナーづくり体験

6. ニューファーマーズ激励会を開催

7月31日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：大野寿也氏）主催で「ニューファーマーズ激励会」を開催し、クラブ員14名が新入クラブ員と新規就農者の計7名を、歓迎・激励した。

はじめに、大野会長の挨拶の後、4Hクラブの概要説明を行った。続いて、出席者全員が自己紹介をするとともに、今後の農業に対する抱負を述べた。その後、会員相互の親睦と交流を目的に、スポーツ大会（ボウリング大会）と交流会が開催された。

新入クラブ員からは「この会に出席して、日高地方では自分と同じ年頃の若手農業者が各クラブで活発に活動を行っていることに驚いた。先輩クラブ員のパワーに刺激を受けつつ、自身も活動に積極的にかかわりたい」との感想があった。



ニューファーマーズ激励会



クラブ員集合写真

VI 西牟婁振興局

1. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が田辺市扇ヶ浜で「梅干しPR & うめラッシーふるまいイベント」実施

7月27日（土）、28日（日）の2日間、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：小谷将之氏）は田辺観光協会と共催で田辺市扇ヶ浜において「梅干しPR & うめラッシーふるまいイベント」を実施した。若い世代の梅離れが深刻な状況で、少しでも梅の消費拡大につながればと県内外から訪れた海水浴客にクラブ員が白干し梅とうめラッシー（梅シロップの牛乳割り）を提供し、併せて梅干しのおいしさや梅シロップの作り方を紹介した。

うめラッシーを試飲した方からは、「牛乳と梅シロップだけでこんなにおいしいのはすごい」、「帰りにシロップを買って帰ります」、「今度から絶対牛乳で割ります！」と大変好評だった。

当クラブでは梅の消費拡大活動として、令和4年度から今回のイベントのような、うめラッシーを広める活動を行っており、最近、田辺市内の飲食店でうめラッシーをメニューに取り入れる店舗も見られる。

小谷会長は、「活動の成果として徐々にうめラッシーが認知され始めており、大変うれしい。イベントでは消費者の声を直接聞くことができ生産者としてもやりがいを感じる」と話した。農業水産振興課では今後も4Hクラブの活動を支援していく。



梅干しを試食する海水浴客



うめラッシーを提供する4Hクラブ員

Ⅶ 東牟婁振興局

重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】

1-1. ～みくまの産地協議会が第1回UIターン就農相談フェアに出展～

7月6日、第1回UIターン就農相談フェアが和歌山県JAビルで開催された。出展したみくまの産地協議会（構成員：JAみくまの、くろしお苺生産販売組合、那智勝浦町役場）のブースに1組2名の相談者が訪れた。

この相談者に対し、村畑普及指導員は相談に応じた当地域での営農形態を説明した。さらに、JAみくまの営農経済センター亀井次長及び那智勝浦町農林水産課高村主事は、当地域で営農する際のメリット、デメリットを説明した。

今後も当課は、みくまの産地協議会のオブザーバーとして、JAトレーニングファームを拠点とした新規就農希望者の受け入れ等を支援していく。



みくまの産地協議会での就農相談

1-2. ～那智勝浦町苺生産組合が第54回総会及び研修会を開催～

7月11日、那智勝浦町宇久井の休暇村南紀勝浦において、那智勝浦町苺生産組合（会長：松出真紀氏）の第54回総会及び研修会が開催された。

当日は会員11名と来賓、関係者が出席した。松出会長による挨拶、那智勝浦町の堀町長とみくまの農業協同組合の石田代表理事組合長の祝辞の後、表彰式では、販売額等が優秀であった会員に対し賞状が授与された。

総会では事業報告、事業計画などが承認された。総会終了後、当課の高垣技師がいちご炭そ病検定の結果や育成系統「JI6」についての農業試験場からの情報を提供した。さらに、JAみくまの営農経済センター笹平営農指導員は独自に行った農薬試験の結果について薬害発生の有無や使用回数の注意点などを説明した。



賞状の授与



研修会

2. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催

7月1日、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）は、総会及び現地研修会を開催した。くろしお熊野やさいグループ（生産者）、市場関係者、JAみくまの職員、市町村職員、農業水産振興課併せて16名の出席があった。

総会では、冒頭に小田会長から「地場産青果物の取扱量は、年々減少している。当協議会関係機関が連携して、安定供給を目指したい。また、出前授業や収穫体験を行い、地産地消を推進していきたい」と挨拶があった。

令和5年度事業報告、収支決算、令和6年度事業計画について審議され、すべて承認された。現地研修会として、なす、オクラ、スイートコーンの栽培ほ場に移動し、当課の高垣技師から、地域の栽培の現状や概要について説明した。その後、栽培方法等について参加者と栽培者間で質疑応答があった。



総会（新宮広域圏公設地方卸売市場）

3. 那智勝浦町の小学生がスイートコーンの収穫を体験

6月20日と7月5日に那智勝浦町太田で下里小学校、那智勝浦町井鹿で勝浦小学校の児童らがそれぞれスイートコーンの収穫を体験した。この取組は、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）が中心となり、地産地消推進活動の一環として小学生を対象に開催している。

各体験ではほ場主の松本安弘氏（くろしお熊野やさいグループ会員）がスイートコーンの収穫に関して説明した。下里小学校の11名の児童がスイートコーン品種「味来」を3本ずつ、勝浦小学校の27名の児童が「ゴールドラッシュ90」を4本ずつ収穫した。収穫後には児童からスイートコーンの生長や、1日の仕事の流れやどんな作業をしているのかなど農業に関する質問があり、松本氏は各質問に丁寧に回答した。

今後も食育活動を実施し、児童たちが食への関心を持つ機会となるよう継続して取り組んでいく。



収穫方法を聞く児童たち

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

1. 令和6年度第1回UIターン就農相談フェアを開催

7月6日、和歌山県JAビル（和歌山市）で第1回UIターン就農相談フェアを開催した。本フェアは平成19年度からスタートし今回が57回目で、これまで約1,000名の方が来場された。

今回、県相談ブースをはじめJA関係、各市町、わかやま移住定住支援センターなどを含む、14団体16相談ブースを設け、県内外から29名の相談者が参加した。相談者からは「農地を借りたいがどうしたらよいか」、「栽培技術は何処で学べるのか」、「どのような補助金があるのか」などの質問が寄せられた。

また、都会からIターンし就農支援センターの研修を経て、ミニトマトなどを栽培されている方を講師に招き、新規就農セミナーを開催した。参加者からは「女性の就農事例が聞けて、同性としてとても励みになった」などの声が聞かれた。

今年度は、同フェアをあと2回（12月1日、2月22日）JAビルで開催する。



相談ブース



新規就農セミナー

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489